



















人体の構造と機能及び心身の発達

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
運動機能解剖学	加藤 正裕 他	<input type="checkbox"/>	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
理学療法学は人体を対象とした実践的学問で、人体の構造と機能を理解しておく必要性が求められる。そのため正常な人体の構造と機能について系統的に学習する。得られた知識は、生理学、運動学、臨床医学へとつながる。 本講義では、理学療法と関わりの深い運動器系（骨格系・筋系）を中心に学習し、その構造と機能を修得する。			1年次
			【開講学期】
			【履修区分】
			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
人体の概要と解剖学的用語を理解する。 人体の構成について全体像を理解することができる。 骨・関節・筋の名称、位置、形態・構造、作用・機能を説明することができる。		骨模型を用いた授業では、積極的に参加し触れてみる。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
パワーポイントと配布資料を用いて、講義中心に進める。 筋骨格系の授業では、骨模型を用いながらグループでの実習も行う。		覚える事項が多いため、復習を中心に進めることが望ましい。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
小テスト、中間試験及び期末試験、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 小テスト5% 中間試験① 30%、中間試験②30% 期末試験 30% 出席及び授業へ取り組む姿勢 5%		「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」 医学書院、「ネッター解剖学アトラス」南江堂	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	解剖学総論；人体の構成、運動器に必要な解剖学用語	加藤 正裕	
2		〃	
3	骨学総論；骨・関節の構造と機能	〃	
4		〃	
5		〃	
6	筋学総論；筋の基本構造と機能	〃	
7		〃	
8		〃	
9	神経学総論；神経系の構成、神経組織、末梢神経系総論	〃	
10		〃	
11	まとめ	〃	
12	中間テスト①・まとめ	〃	
13	骨模型実習 オリエンテーション ①上肢帯（鎖骨・肩甲骨）	藤堂庫治	
14	②自由上肢骨（上腕骨・橈骨・尺骨）	〃	
15	③自由上肢骨（手根骨・中手骨・指節骨）と胸郭（胸骨・肋骨）	〃	
16	④椎骨と脊柱（頸椎・胸椎・腰椎・仙椎・尾椎）	〃	
17	⑤下肢帯と骨盤（寛骨・仙骨・骨盤）	〃	
18	⑥自由下肢骨（大腿骨・膝蓋骨・脛骨・腓骨）	〃	
19	⑦自由下肢骨（足根骨・中足骨・指節骨）	〃	
20	⑧頭蓋概観・脳頭蓋の各部 ⑨顔面頭蓋の各部	〃	
21	骨 中間テスト②・まとめ	〃	
22	筋実習 オリエンテーション ①胸部の筋 上肢の屈筋群	〃	
23	②背部の筋 上肢の伸筋群	〃	
24	③前腕の屈筋群	〃	
25	④前腕の伸筋群	〃	
26	⑤内寛骨筋群 外寛骨筋群	〃	
27	⑥大腿の伸筋群 内転筋群	〃	
28	⑦大腿の屈筋 下腿の屈筋	〃	
29	⑧下腿の伸筋 腓骨筋	〃	
30	筋 期末テスト・まとめ	〃	

人体の構造と機能及び心身の発達

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
解剖学	加藤 正裕 他	<input type="checkbox"/>	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
理学療法学は人体を対象とした実践的学問で、人体の構造と機能を理解しておく必要性が求められる。そのため正常な人体の構造と機能について系統的に学習する。得られた知識は、生理学、運動学、臨床医学へとつながる。 解剖学Ⅱでは内臓器系・神経系の正常な形態と構造を理解し、各臓器のそれぞれの名称、働きなどについて学習する。			1年次
			【開講学期】
			後期
			【授業形態】
			講義
			【履修区分】
			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
人体の構成について各系統（器官系）の全体像を理解することができる。 内臓器系・神経系の正常な構造・働きについて理解し説明することができる。		グループ学習・調べ学習を中心に行うため協力が必要となる。協調的な態度で臨むことが良い。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
パワーポイントと配布資料を用いて講義を中心に解説・説明をする。神経系は予習課題を渡し、それに沿った講義・グループ学習・調べ学習を展開し最後に確認テストを行う		覚える事項が多いため、復習を中心に進めることが望ましい。予習課題を渡すため必ず行って講義に臨むこと。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
定期試験で総合的に評価する。中間試験 50%、期末試験 50% 合算で6割以上。但しいずれの試験も5割以上。  ※いずれかの試験が5割未満の場合、該当試験を再試験とする。		「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」医学書院 「ネッター解剖学アトラス」南江堂 「人体の構造と機能」メディックメディア	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	循環器系の解剖；心臓について	加藤 正裕	
2		〃	
3	脈管系の解剖；動脈系・静脈系・リンパ系について	〃	
4		〃	
5	内臓学；内臓器官の基本構造、 消化器系の解剖；口腔から大腸、肝臓、胆嚢、膵臓等について	〃	
6		〃	
7		〃	
8	呼吸器系の解剖；鼻、咽頭、気管、気管支、肺等について	〃	
9		〃	
10	泌尿器系の解剖；腎臓、尿管、膀胱、尿道について	〃	
11	生殖器系の解剖；男性および女性生殖器について	〃	
12	内分泌系の解剖；内分泌系の構造と機能について	〃	
13	感覚器系の解剖；外皮・味覚・平衡感覚・視覚器等について	〃	
14		〃	
15	まとめ	〃	
16	中間試験・まとめ	〃	
17	神経系総論；神経系の構成、発生	小野佳子	
18		〃	
19	中枢神経系；脊髄	藤堂庫治	
20	中枢神経系；脳幹	高橋宏輝	
21	中枢神経系；大脳	木島 隆	
22		〃	
23	中枢神経系；小脳	〃	
24	末梢神経系；脊髄神経	塩澤 崇	
25		〃	
26	末梢神経系；脳神経	高橋宏輝	
27		〃	
28	末梢神経系；自律神経	藤堂庫治	
29	神経路	〃	
30	期末試験・まとめ	木島 隆	



人体の構造と機能及び心身の発達

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
解剖学演習	塩澤 崇 他	<input type="checkbox"/>	1単位 / 30時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
解剖学の知識をもとに、骨標本や人体各部の標本・模型を用いて人体の構造を立体的に把握し、それらの機能を理解していくことで、専門分野の学習を進める上で十分な基礎知識を獲得する。			1年次
循環系、内臓系の構造・作用、血管支配等を立体的に理解する。			【授業形態】
神経系に関しては解剖学・生理学の知識を統合し、自律神経系の機能、神経の走行、脳解剖・伝導路について理解する。			【履修区分】
【授業の到達目標】			【履修上の注意事項】
人体の構造を部位ごとに理解し、各器官の名称、位置、形状を正しく述べることができる。循環系について、心臓の構造と機能、主要な血管とその分枝の名称、走行、分布域について述べるができる。内臓諸器官については脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、内分泌系について構造と機能を関連づけて述べるができる。			グループ学習が中心となるため、積極的に授業に参加すること。
【授業の方法】			【授業時間外学修（予習・復習等）】
演習を中心に行う。 模型等を用いながら、演習はグループで行う。			解剖学で学んだ内臓系・神経系の分野の復習を行うこと。
【成績評価の方法と基準】			【教科書・参考書】
定期試験及び課題、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 定期試験 80% 出席及び授業へ取り組む姿勢 20%			「標準理学療法学・作業療法学 解剖学」医学書院 「ネッター解剖学アトラス」南江堂 「シンプル生理学」 南江堂 「人体の構造と機能」メディックメディア
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容		
1	内臓系	循環器系：心臓	
2		脈管系	
3		消化器系	
4		呼吸器系	
5		泌尿器系	
6		内分泌系	
7		感覚器系（嗅覚・視覚）	
8	脳・神経系	感覚器系（皮膚感覚・聴覚、平衡感覚）	
9		神経系の理解（運動・感覚神経の走行）	
10		自律神経系の理解	
11		下肢末梢神経の走行（腕神経叢・腰神経叢）	
12		中枢神経について（脳解剖）	
13		中枢神経について（伝導路）	
14		筋収縮の仕組みについて	
15		定期試験・まとめ	









人体の構造と機能及び心身の発達

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
生理学実習	能勢 博 他	<input type="checkbox"/>	1単位 / 30時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
各種の生理機能（呼吸・循環・内分泌・筋収縮・神経機能など）をより深く理解するために、健全な人を対象として、グループによる実験を行う。実験の基本的な手技、機器の操作方法、データの収集、実験結果の分析、考察の仕方などを修得し、レポート作成を行う。実験で観察される現象や得られた結果（データ）を、自分の眼で確認し正しく理解する。			1年次
			【履修学期】
【授業の到達目標】			【履修上の注意事項】
生体への刺激に対する反応を生理学的に理解できること 生理学的な応答を文章にして説明することができること			真剣に積極的に取り組むこと。 班のチームワークを乱さないようにして、主体的に参加すること
【授業の方法】			【授業時間外学修（予習・復習等）】
グループごとに各実習項目の実験を実施し、レポート提出する。			生理学的反応について考察しレポートをまとめるため図書を調べながら復習すると良い。
【成績評価の方法と基準】			【教科書・参考書】
レポート提出、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 レポート提出 90% 出席及び授業へ取り組む姿勢 10%			「シンプル生理学」 南江堂 「基礎運動学」 医歯薬出版
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容		
1			
2			
3			
4	骨格筋機能		
5	各種筋力測定		
6	循環の生理学		
7	心拍数、血圧の生理的変動		
8	感覚機能		
9	皮膚感覚、深部感覚（感覚点の分布、二点弁別覚）		
10	呼吸の生理学		
11	スパイログラムの測定		
12			
13			
14			
15			















疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

【授業科目名】		【担当教員名】		【実務経験教員による授業】		【単位数/授業時数】	
内科学		川口 研二 他		□		2単位 / 30時間	
【授業の概要（内容）と目的】						【履修年次】	【開講学期】
内科学は解剖学・生理学を基礎とし、人体の疾患の中心をなすものである。近年の医学の進歩は各分野で大きく進歩し、各分野の知識は複雑となりそれについて理解するのに苦労しているのが現状である。限られた時間内で少しでも臨床に役立つ知識と学力を修めるべく要点をおさえ理解しやすく教えるように務めていく予定である。総論に続いて消化器・循環器・呼吸器・腎・肝・膵・代謝・内分泌・感染症・寄生虫・免疫・アレルギー・膠原病・血液について講義・修得してもらうことを狙う。						2年次	前期
						【授業形態】	【履修区分】
						講義	必修
【授業の到達目標】				【履修上の注意事項】			
<ul style="list-style-type: none"> <li>解剖学、生理学を基盤とし疾患の発生病序を説明することができる</li> <li>理学療法士に関連の深い内科的疾患についてその特徴を説明できる。</li> <li>疾患の病態生理、症状、検査、治療および予後について説明することができる</li> </ul>				スライド等の資料に重要点などを記録しながら受講すること。			
【授業の方法】				【授業時間外学修（予習・復習等）】			
パワーポイントと資料を用いて講義を進める。				講義内容の予習・復習をすること。 分からない専門用語は自分で調べながら理解を深めること。			
【成績評価の方法と基準】				【教科書・参考書】			
定期試験、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 定期試験90% 出席及び授業へ取り組む姿勢10%				「標準理学療法学・作業療法学 内科学」 医学書院			
【授業計画（各回のテーマ・内容）】							
コマ数	授業内容					担当教員	
1	内科学総論、診断、治療					川口 研二	
2	感染疾患					"	
3	循環器疾患；循環器疾患各論症候と病態生理					矢澤 卓	
4	循環器疾患；循環器疾患の診断法、治療					"	
5	循環器疾患；循環器疾患各論					"	
6	呼吸器疾患；症候と検査所見、等					川口 研二	
7	呼吸器疾患；感染性肺疾患、慢性閉塞性肺疾患、等					"	
8	呼吸器疾患；拘束性肺疾患、肺腫瘍、肺循環障害、等					"	
9	消化器疾患；消化器系の解剖生理、食道、胃、大腸、小腸					宮林 秀晴	
10	肝胆膵疾患；胆、膵、肝疾患					古田 清	
11	血液・造血器疾患；血病、貧血、リンパ腫など					平林 幸生	
12	内分泌・代謝性疾患；内分泌・代謝性疾患各論					青木 雄次	
13	内分泌・代謝性疾患；内分泌・代謝性疾患各論					"	
14	腎・泌尿器疾患					"	
15	膠原病、アレルギー疾患、免疫不全					川口 研二	
16	定期試験					"	

疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

【授業科目名】		【担当教員名】		【実務経験教員による授業】		【単位数/授業時数】		
整形外科学		宮澤 隆志 他		<input type="checkbox"/>		2単位 / 30時間		
令和6年度 【授業の概要（内容）と目的】						【履修年次】	【開講学期】	
整形外科疾患に対する病態、検査法、治療を理解することにより、理学療法に対する理解を深める。実際の医療の現場での臨床経験を踏まえて、治療に携わる医師が理学療法士に何を期待するのかを伝える。臨床現場でのレントゲン写真などを用いて、臨床に即した講義を行う予定。理学療法において整形外科疾患は、重要な位置を占める。機能解剖を踏まえて、各疾患の病態生理を理解し、理学療法士としての必要な知識と技術の向上に努める。						2年次	前期	
						【授業形態】	【履修区分】	
						講義	必修	
【授業の到達目標】				令和6年度 【履修上の注意事項】				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科疾患に関する人体解剖と生理について理解を深めることができる。</li> <li>・理学療法士に関連の深い整形外科の疾患についてその特徴を説明できる。</li> <li>・代表的な治療方法を説明できる。</li> </ul>				解剖学の復習をしっかりとしてから授業に臨むこと。 スライド等の資料に重要点などを記録しながら受講すること。				
【授業の方法】				【授業時間外学修（予習・復習等）】				
パワーポイントと資料を用いて講義を進める。				講義内容の予習・復習をすること。 分からない専門用語は自分で調べながら理解を深めること。				
【成績評価の方法と基準】				令和6年度 【教科書・参考書】				
定期試験、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 定期試験90% 出席及び授業へ取り組む姿勢10%				「病気がみえる 11 運動器・整形外科」 メディックメディア				
【授業計画（各回のテーマ・内容）】								
コマ数	令和7年度 授業内容（案）						講師	
1	運動器の解剖生理						宮澤隆志	
2	総論・検査、治療						〃	
3	骨・軟部腫瘍、脊髄腫瘍						鈴木 周一郎	
4	末梢神経損傷						植村 一貴	
5	骨系統疾患、代謝性疾患、感染性疾患						〃	
6	外傷（外傷総論、骨折総論、主な骨折、脱臼総論、主な脱臼） スポーツ外傷・障害、その他						宮澤隆志	
7							〃	
8							〃	
9	上肢の疾患（肩関節周囲炎、腱板断裂、上腕骨外側上顆炎、腱鞘炎、等）						〃	
10							〃	
11	下肢の疾患（大腿骨頭壊死、ペルテス病、大腿骨頭すべり症、 股関節形成不全、半月板損傷、膝靭帯損傷、捻挫、アキレス腱断裂、 扁平足、先天性内反足、外反母趾、等）						〃	
12							〃	
13	変形性関節症、リウマチ疾患						〃	
14	体幹の疾患（脊椎損傷、脊髄損傷、椎間板ヘルニア、狭窄症、分離症、 すべり症、頸髄症、OPLL、側弯症、等）						〃	
15							〃	
16	定期試験 まとめ						本校の教員	



### 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進

【授業科目名】 精神医学	【担当教員名】 松本 武典	【実務経験教員による授業】 <input type="checkbox"/>	【単位数/授業時数】 2単位 / 30時間
【授業の概要（内容）と目的】 精神医学の基礎知識、各種精神障害の原因・病態・治療法を理解することにより、理学療法士として必要な精神障害者に対する理解を深める。本講義では、主に精神医学の対象となる疾患や常態を概観し、その症状・治療について説明する。精神に悩みや痛みを持つ者に対する理解を深め、リハビリテーション活動の実際に質することを目標とする。			【履修年次】 2年次
			【開講学期】 前期・後期
【授業の到達目標】 ・基本的な精神障害の病態、症状を列挙できる。 ・精神障害の基本的な治療について言える。 ・理学療法を実施する上での注意点について言える。			【授業形態】 講義
			【履修区分】 必修
【授業の方法】 スライドを使用した講義を中心に進めていく。		【履修上の注意事項】 スライド等の資料に重要点などを記録しながら受講すること。	
【成績評価の方法と基準】 定期試験、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 定期試験90% 出席及び授業へ取り組む姿勢10%		【授業時間外学修（予習・復習等）】 講義内容の復習をすること。	
		【教科書・参考書】 「標準理学療法学・作業療法学 精神医学」 医学書院	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容		
1	「精神医学の概要、精神疾患の分類、診断」「精神症候学」		
2	「精神科治療学」		
3	「精神疾患各論：統合失調症」 <input type="checkbox"/>		
4	「気分症」「ストレス関連症群」 <input type="checkbox"/>		
5	「不安症群、強迫症、解離症群、摂食症群」「パーソナリティ症」 <input type="checkbox"/>		
6	「物質使用症」 <input type="checkbox"/>		
7	「神経認知症」「てんかん」 <input type="checkbox"/>		
8	「児童精神医学」「精神保健福祉」 <input type="checkbox"/>		
9	「精神医療の歴史」 <input type="checkbox"/>		
10	「我が国の精神医療の歴史」 <input type="checkbox"/>		
11	「心の機能」「正常睡眠と睡眠障害」 <input type="checkbox"/>		
12	「心の発達、ライフサイクルと心の健康」		
13	「医療観察法：精神鑑定と責任能力」 <input type="checkbox"/>		
14	「コンサルテーション・リエゾン精神医学、緩和ケア医療」 <input type="checkbox"/>		
15	定期試験・まとめ		









保健医療福祉とリハビリテーションの理念

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
保健医療福祉概論	小野 佳子	<input checked="" type="checkbox"/> 理学療法士として病院において20年以上の臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	1単位 / 30時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
理学療法士が業務とする、あるいは活動する保健・医療・福祉の領域について、法制度やサービス内容を理解しておくことは、理学療法実施・展開にとって極めて大切である。特に介護保険や社会福祉法の制度など保健医療福祉制度は利用者本位の統合された多様な支援となるなどリハビリテーション領域において多大な影響を及ぼしている。本講義では保健・医療・福祉の各領域について、法制度の動向やサービス内容を理解し、その中で理学療法士の役割を理解していく。			1年次
			【開講学期】
			前期
			【授業形態】
			講義・演習
【履修区分】			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
医療の基本的な仕組みについて理解し、重要な用語を使えるようになる。 医療保険制度について理解し、実生活に役立てることができる。 介護保険制度について学び、基本的用語を使えるようになる。 保健予防システムを理解し、自己の健全な成長や将来の業務に役立てることができる。		A4サイズの紙ファイルを用意してください。 解説時に、重要なことば等を聞き取り、資料等に書き込むようにしてください。グループ学習の際は積極的に発言しましょう。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
講義資料を配布します。板書の場合は資料に写した後に、解説をする。別に配布資料、パワーポイント等も利用する。 調べ学習、発表等も含め、共同学習も行う。 原則として、講義終了時に学習内容について小テストを実施する。		講義で学んだ新しい用語をひとつ選び、調べてワークシートに記入してください。 新聞やニュースに関心を持ち、医療関係の記事を読んでください。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
受講態度10%（出席、態度、宿題、等） 期末試験90%		教科書：「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容		
1	医療の提供体制；健康の指標		
2	医療の提供体制；医療機関の種類、病床の種類		
3	医療の提供体制；医療従事者、地域医療		
4	医療の提供体制；医療の情報、評価		
5	医療保障制度；医療保険の歴史、基本的な仕組み、種類		
6	医療保障制度；診療報酬、自己負担		
7	医療保障制度；保険給付の種類・内容、高齢者医療制度		
8	介護保障制度；介護保険の仕組み、理学療法士の役割、地域包括ケアシステム		
9	介護保障制度；まとめ、地域保健活動		
10	保健予防システム；母子保健		
11	保健予防システム；精神保健		
12	保健予防システム；健康増進		
13	保健医療福祉に関する情報収集		
14	まとめ；復習、期末試験対策		
15	期末試験、まとめ		





基礎理学療法学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
基礎実習	小野 佳子 他	<input checked="" type="checkbox"/> 全教員が理学療法士として病院等における臨床経験、実習指導の経験があり、その経験を基に授業を行う。	1単位 / 45時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
医療・福祉の仕事がどういうものなのか、実際の現場を通じて体験する。患者様の生活のお手伝いをしながら、患者様との関わり方や患者様のADL・障害等について学んでいく。また社会人として、医療人としての心構えを構築し、資質を身につけることを目標とする。			1年次
			【開講学期】
			前期
			【授業形態】
			演習・実習
			【履修区分】
			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
社会人、医療人として基本的な態度・行動ができる 対象者との人間関係を構築できる 疾病、障害、ADL障害、他職種の役割、リスク管理について理解できる 対象者・障害者の諸問題を把握する		社会人・医療人としての基本的な態度・行動に心がけること。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
グループごと各施設に分かれて介護体験をする		実習に臨むまでに、オリエンテーションの内容をよく復習しておくこと。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
下記の割合と実習中の姿勢を総合的に評価する。 報告会50%、出席20%、実習態度20%、提出10%		適宜資料を配布する	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容		
1	介護実習に向けての心構え		
2	オリエンテーション；介護実習をするにあたっての注意事項		
3	〃		
4	オリエンテーション；介護実習をするにあたっての実技		
5	〃		
6	〃		
7			
8	介護実習；各施設に分かれて介護体験をする（1日目）		
9			
10			
11			
12	〃（2日目）		
13			
14			
15			
16	〃（3日目）		
17			
18			
19	まとめ；学校にてグループワーク		
20	〃		
21	〃		
22	〃		
23	報告会		
24	〃		
25	〃		
26	〃		

基礎理学療法学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
運動療法学総論	小野 佳子 塩澤 崇	<input checked="" type="checkbox"/> どの教員も理学療法士として病院等における臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】		【履修年次】	【開講学期】
運動療法とは各種疾患が原因で生じる機能障害に対して、予防と軽減と回復を目的に施行する治療手段であり、理学療法の中核をなす治療手技である。 運動療法の基礎的な原理と方法を学ぶ。運動器系や呼吸循環器代謝系の解剖生理、病理、学習理論の基礎的原理と関節可動域運動、筋力増強運動、持久力増強運動、協調性運動、等、具体的治療方法との関係を理解する。運動療法の基礎を学習し、この後に続く各疾患に対する運動療法を理解し、実施するための基礎とする。		2年次	前期
		【授業形態】	【履修区分】
		講義・実技	必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
運動療法に必要な解剖生理運動学の基本的知識を定着させる。 基本的な運動療法の目的、方法、注意点について理解し、説明できる。 実技で基本的な運動療法を体験し、各疾患に対する運動療法を学ぶときや臨床実習に役立てることができる。		解剖生理運動についてなどの基礎知識と理学療法法のつながりを理解できるよう能動的に学ぶこと。 共同学習では責任を持って取り組むこと。 実技の際は動ける服装で、積極的に練習すること。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
教科書、配布資料、パワーポイント等により講義する。 調べ学習、発表等も含め、共同学習も行う。 講義時間内に小テストを実施することもある。実技も行う。		1年次で履修する「解剖学」「生理学」「運動学」の内容を復習しておくこと。毎回の講義終了後、内容を見直すこと。宿題を忘れず実施すること。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
受講態度10%（出席、態度、宿題、等） 定期試験90%		「標準理学療法学 運動療法学総論」 医学書院	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	概念；運動療法とは	小野佳子	
2	運動療法の基礎理論；関節の構造、関節運動	〃	
3	運動療法の基礎理論；筋と筋収縮	〃	
4	〃	〃	
5	運動療法の基礎理論；随意運動と運動制御の生理、運動と神経	〃	
6	〃	〃	
7	運動療法の基礎理論；呼吸の基礎 運動と呼吸	〃	
8	〃	〃	
9	運動療法の基礎理論；運動と循環	〃	
10	〃	〃	
11	運動療法の基礎理論；運動と代謝、持久力増強運動	〃	
12	〃	〃	
13	基本的運動療法；持久力増強運動 実技	〃	
14	〃	〃	
15	運動療法の基礎理論；運動の種類	塩澤 崇	
16	〃	〃	
17	運動療法の基礎理論；運動の種類 実技	〃	
18	〃	〃	
19	基本的運動療法；関節可動域運動	〃	
20	〃 実技	〃	
21	基本的運動療法；関節可動域運動 実技	〃	
22	〃	〃	
23	基本的運動療法；筋力増強運動	〃	
24	〃	〃	
25	基本的運動療法；筋力増強運動 実技	〃	
26	〃	〃	
27	基本的運動療法；協調性運動、バランス運動	〃	
28	〃	〃	
29	基本的運動療法；協調性運動、バランス運動 実技	〃	
30	〃	〃	
31	定期試験、まとめ	〃	

基礎理学療法学

<b>【授業科目名】</b>	<b>【担当教員名】</b>	<b>【実務経験教員による授業】</b>	<b>【単位数/授業時数】</b>
理学療法研究法	木島 隆	<input checked="" type="checkbox"/> 理学療法士として病院において10年以上の臨床経験があり、リハビリテーション分野の研究にも従事している。	1単位 / 30時間
<b>【授業の概要（内容）と目的】</b>		<b>【履修年次】</b>	<b>【開講学期】</b>
臨床的研究論文を選択し、理学療法分野の研究の動向を学ぶ。理学療法を提供するために、研究論文を読むことの重要性を理解し、論文作成の知識を身につける。医療従事者として研究の目的や意義を理解し、実践を通じて基礎的な研究能力を身につける。論理的な文章を作成する過程を経験し、論文の構成要素などを具体的に学び、レビューを作成する。		3年次	通年
		<b>【授業形態】</b>	<b>【履修区分】</b>
		講義・演習	必修
<b>【授業の到達目標】</b>		<b>【履修上の注意事項】</b>	
医療・理学療法におけるエビデンスの重要性を理解し説明ができる。 論文の検索をすることができる。 理学療法の一般的な臨床の流れの中に研究的視点の重要性が理解できる。 科学的な研究方法の基礎を説明でき、研究の計画が立てられる。		将来の自分を予想しながら参加すると自己の形成に役立つと思われる。	
<b>【授業の方法】</b>		<b>【授業時間外学修（予習・復習等）】</b>	
理学療法の一般的な流れを説明し、その中で責任・意義を学ぶ。また、科学論文を読むための知識として論文の構成と検索方法を学ぶ。その後、研究の目的をそれぞれ決め検証方法を検討し発表をしてもらう。			
<b>【成績評価の方法と基準】</b>		<b>【教科書・参考書】</b>	
定期試験、課題の発表、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に判断する。 定期試験：40%、課題提出：40% 課題・出席及び授業へ取り組む姿勢：20%		随時資料を配る	
<b>【授業計画（各回のテーマ・内容）】</b>			
コマ数		授業内容	
1	理学療法士の責任と義務（理学療法士の臨床の意義について学習する）		
2	理学療法士の臨床の意義（理学療法士が行う思考過程・意思決定のプロセスを明確にする）		
3	臨床の流れ（CVA・運動器疾患の入院から退院までの主なプロセス、PTの関わり・シュミレーション）		
4	病体全般に対する理解（病態、予後、一般的な治療法）		
5	科学論文（学術論文の基本構成を説明できる）		
6	研究の基本的な構造		
7	研究の実験計画・研究の質について		
8	中間試験・まとめ		
9	研究テーマに関する論文収集		
10	研究テーマに関する文献抄読を行いレビューレポートを作成する		
11	〃		
12	〃		
13	〃		
14	〃		
15	〃		

基礎理学療法学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
臨床技術セミナー	塩澤 崇	<input checked="" type="checkbox"/> 理学療法士として病院・施設において8年以上の臨床経験、実習指導の経験があり、その経験を基に授業を行う。	1単位 / 30時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
臨床実習に必要な基礎知識の確認をしながら、各臨床場面に適した実技練習をする。これらを総合して、客観的臨床能力試験（OSCE）を経験することにより、対応能力（臨床能力）を高める。また、臨床実習に必要な基礎知識の確認のためCBTを行う。総合臨床実習（総合Ⅰ・総合Ⅱ）の準備とする。			3年次
			【開講学期】
			前期
			【授業形態】
			演習・実技
			【履修区分】
			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
事前情報から患者像を読み取ることができる。 必要な医学的知識、禁忌、評価方法を整理できる。 適切な接遇を持って患者と接することができる。 リスクを管理しながら評価・介助することができる。 正確に評価することができる。		臨床実習にふさわしい身だしなみで参加すること。 患者役は徹底して患者に徹すること。 安全に愛護的に手際よく評価できるように真剣に取り組むこと。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
課題に対する知識の整理と実技練習を行い、技術を習得していく。 試験後、実技のポイントや注意点をワークシートにまとめる。		空き時間には積極的に練習に励むこと。 提示された症例について不明な点は教員に質問したり、事前に調べてくること。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
授業態度、OSCEの試験結果、出席状況を総合的に判断して評価する。 授業態度とOSCE試験結果60%、CBT：30%、出席・授業の取り組む姿勢：10%		適宜配布する	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容		
1	オリエンテーション OSCE①の説明、練習		
2	OSCE① 試験		
3	〃		
4	〃		
5	OSCE②の説明、練習		
6	OSCE② 試験		
7	〃		
8	〃		
9	OSCE③の説明、練習		
10	OSCE③ 試験		
11	〃		
12	〃		
13	CBT		
14	〃		
15	まとめ		





理学療法管理学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
医療管理学	塩澤 崇	<input checked="checked" type="checkbox"/> 理学療法士として病院・施設において8年以上の臨床経験、実習指導の経験があり、その経験を基に授業を行う。	1単位 / 15時間
【授業の概要(内容)と目的】			【履修年次】
理学療法士に求められる役割・管理業務の基本、諸制度について学ぶ。頻発する医療事故を概観し、医療現場の現状と医療職を取りまく社会的環境を理解する。事故発生メカニズムと事故分析、事故対策について学習する。講義・グループワークを通して、リハビリテーションにおける施設基準や診療報酬の知識・考え方を概論的に理解できること、臨床現場でのリスク管理や他職種との連携などを講義・演習を通して学び、実行できる様になることを目標とする。			1年次
			【開講学期】
			後期
			【授業形態】
			講義・演習
			【履修区分】
			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
理学療法士に関わる職業倫理、職場管理について理解できる。保険医療を取り巻く諸制度を理解できる。医療管理の必要性について理解できる。医療事故の実際を知り、安全対策の必要性について理解する。事故の発生要因について説明できる。診療報酬・施設基準について理解できる。臨床でのリスク管理について理解できる。標準感染予防策について理解し、実施することができる。		保健医療福祉概論と結びつけて、解釈すると理解に繋がる	
【授業の方法】		【授業時間外学修(予習・復習等)】	
パワーポイントと資料を用いて概要を説明したのち、調べ学習・演習を個人または班に分かれて行う。		配布資料をもとに復習を行うこと。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
定期試験、課題提出、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 定期試験80% 課題提出10% 出席及び授業へ取り組む姿勢10%		適宜、資料を配布する 「理学療法管理学」医歯薬出版 「シンプル衛生公衆衛生学」南江堂 「リハビリテーション リスク管理ハンドブック」メジカルビュー社	
【授業計画(各回のテーマ・内容)】			
コマ数		授業内容	
1	医療管理について		
2	感染対策について・標準予防策の方法		
3	組織運営とマネジメント(インシデント・アクシデントレポート)		
4	理学療法業務のマネジメント・職業倫理		
5	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント(医療保険制度・介護保険制度)		
6	リハビリテーション施設基準・診療報酬(グループワーク・発表)		
7	臨床におけるリスク管理(KYTトレーニング、疾患別・病期別のリスクマネジメント)		
8	定期試験・まとめ		



理学療法評価学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
理学療法評価技術論 I	塩澤 崇 他	<input checked="" type="checkbox"/> どの教員も理学療法士として病院等における臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
理学療法評価学 I で学んだ知識を基に、理学療法評価の基本となる、バイタルサイン、身体計測、関節可動域測定法の技術を学習する。実際にその検査を実践するための手順・方法・注意点などについて学び、基本的な評価が正確に安全に実施できるようになる。			1 年次
			【履修学期】
			後期
			【授業形態】
			演習・実技
			【履修区分】
			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
バイタルサインを測定することができる 形態測定を実施することができる 関節可動域測定を実施することができる		実技中心になるため、実習に臨める格好で参加すること。 実技練習は、臨床現場を想定し真剣に取り組むこと。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
パワーポイントと配布資料を用いて手順・方法を説明したのち、実技を行う。 実技ではデモンストレーション後、学生同士で実践する。		関節域測定に関しては、基本軸、移動軸を確認すること。 授業後には実技練習を繰り返し行うこと。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
OSCEと出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 OSCE 90% 出席及び授業へ取り組む姿勢10%		「理学療法評価法」金原出版	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	バイタルサイン実技（呼吸・脈拍）	吉澤利夫	
2	バイタルサイン実技（血圧・体温・意識レベル）	〃	
3	バイタルサイン：まとめ	〃	
4	形態測定実技（四肢長）	〃	
5	形態測定実技（周径）	〃	
6	形態測定：まとめ	〃	
7	脳神経の検査法実技	〃	
8	脳神経の検査法：まとめ	〃	
9	グループにて総演習	〃	
10	グループにて総演習	〃	
11	実技試験①（バイタルサイン・四肢長・周径）	〃	
12	〃	〃	
13	関節可動域測定実技（肩関節・肘関節・前腕の自動運動）	塩澤 崇	
14	関節可動域測定実技（手関節・頸部、胸腰部の自動運動）	〃	
15	関節可動域測定実技（肩関節・肘関節・前腕の他動運動）	〃	
16	〃	〃	
17	関節可動域測定実技（手関節・頸部、胸腰部の他動運動）	〃	
18	〃	〃	
19	関節可動域測定 上肢のまとめ	〃	
20	関節可動域測定実技（股関節・膝関節の自動運動）	〃	
21	関節可動域測定実技（足関節・足部・肩甲帯の自動運動）	〃	
22	関節可動域測定実技（股関節・膝関節の他動運動）	〃	
23	〃	〃	
24	関節可動域測定実技（足関節・足部・肩甲帯の他動運動）	〃	
25	〃	〃	
26	関節可動域測定 下肢のまとめ	〃	
27	グループにて総演習	〃	
28	グループにて総演習	〃	
29	実技試験②（関節可動域測定）	〃	
30	〃	〃	

理学療法評価学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
理学療法評価学Ⅱ	塩澤 崇 他	<input checked="" type="checkbox"/> どの教員も理学療法士として病院等における臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】		【履修年次】	【開講学期】
理学療法評価学Ⅰに続き、基本的な評価法を学習する。各評価における検査・測定の目的・方法を理解し、実際の検査・測定を総合的にこなせるようになることを目標とする。この科目ではMMT、筋緊張検査、感覚検査、反射検査などを実施するために、各評価の目的と方法を理解し、判定基準・検査結果の解釈や注意点についても学習する。 検査結果より抽出された問題点、治療プログラムとの関連性を考えられるようにす		2年次	前期
		【授業形態】	【履修区分】
		講義	必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
MMTの概念を述べることができる MMTの概念を使用し、筋力の段階付けを実施することができる 一般的検査方法（筋緊張、反射、協調性、感覚、疼痛、片麻痺機能）などの検査目的を理解し説明することができる。			
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
MMT:配布資料を用いて方法を説明。 一般的検査は配布使用を用いて理論・方法を説明し実技にて検査方法を体験する。		MMT:授業が始まる前に筋の起始停止を復習すること。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
定期試験、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 定期試験90% 出席及び授業へ取り組む姿勢10%		「理学療法評価法」 金原出版 「徒手筋力検査法」 協同医書 「リハビリテーションのための画像の読み方」 メディカルビュー	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	MMT概要	塩澤 崇	
2	上肢1 肩	〃	
3	上肢1 肩	〃	
4	上肢2.3 肘 前腕 手関節	〃	
5	上肢4 肩甲骨	〃	
6	上肢4 肩甲骨	〃	
7	練習 上肢	〃	
8	下肢1 股関節	〃	
9	下肢1 股関節	〃	
10	下肢2 膝関節 足関節	〃	
11	下肢3 体幹 表情筋	〃	
12	練習 下肢	〃	
13	画像評価の基礎	〃	
14	画像評価の基礎（脳血管疾患、骨関節疾患、胸部・腹部疾患）	〃	
15	画像診断の基礎（脳血管疾患、骨関節疾患、胸部・腹部疾患）	〃	
16	筋緊張の検査法	木島 隆	
17	〃	〃	
18	反射の検査法；深部腱反射・表在反射・病的反射	〃	
19	〃	〃	
20	姿勢反射の検査法	〃	
21	〃	〃	
22	協調性の検査法	〃	
23	〃	〃	
24	感覚検査法；体性感覚	〃	
25	〃	〃	
26	疼痛の評価法	〃	
27	〃	〃	
28	片麻痺運動機能検査	〃	
29	〃	〃	
30	レポート・レジメの書き方	〃	
31	定期試験・まとめ	〃	

理学療法評価学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
理学療法評価技術論Ⅱ	塩澤 崇 他	<input checked="" type="checkbox"/> どの教員も理学療法士として病院等における臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】		【履修年次】	【開講学期】
理学療法評価学Ⅱで学んだ知識を基に、基本的な評価法を学習する。MMT、筋緊張検査、感覚検査、反射検査などの技術を学習する。実際にその検査を実践するための手順・方法・注意点などについて学び、基本的な評価が正確に安全に実施できるようになる。		2年次	後期
		【授業形態】	【履修区分】
		演習・実技	必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
MMTの概念を使用し、筋力の段階付けを実施することができる MMTの技術を正確に実施することができる 一般的検査方法（筋緊張、反射、協調性、感覚、疼痛、片麻痺機能）などの検査目的を理解し健常人に検査ができる。		実技中心になるため、実習に臨める格好で参加すること。 実技練習は、臨床現場を想定し真剣に取り組むこと。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
MMT:実技ではデモンストレーション後、学生同士で実践する。 一般的検査はデモンストレーション後班ごとに練習、その後知識の確認のため小テスト、実技を披露する。		MMT：授業が始まる前に筋の起始停止を復習すること。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
OSCEと出席及び授業へ取組む姿勢を総合的に評価する。 OSCE 90% 出席及び授業へ取り組む姿勢10%		「理学療法評価法」 金原出版 「徒手筋力検査法」 協同医書 「リハビリテーションのための画像の読み方」 メディカルビュー	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	MMT概要	塩澤 崇	
2	上肢1 肩	〃	
3	上肢1 肩	〃	
4	上肢2.3 肘 前腕 手関節	〃	
5	上肢4 肩甲骨	〃	
6	上肢4 肩甲骨	〃	
7	練習 上肢	〃	
8	下肢1 股関節	〃	
9	下肢2 膝関節 足関節	〃	
10	下肢3 体幹 表情筋	〃	
11	練習 下肢	〃	
12	OSCE (MMT)	〃	
13	OSCE (MMT)	〃	
14	画像評価実習 (脳血管疾患、骨・関節疾患、胸部・腹部疾患)	〃	
15	画像評価実習 発表	〃	
16	筋緊張の検査法、反射の検査法；深部腱反射・表在反射・病的反射	木島 隆	
17	〃	〃	
18	OSCE (筋緊張検査、反射検査)	〃	
19	〃	〃	
20	姿勢反射の検査法、協調性・バランスの検査法	〃	
21	〃	〃	
22	OSCE (姿勢反射、協調性・バランス)	〃	
23	〃	〃	
24	感覚検査法；体性感覚、疼痛の評価法	〃	
25	〃	〃	
26	OSCE (感覚検査、疼痛評価)	〃	
27	〃	〃	
28	片麻痺運動機能検査	〃	
29	OSCE (片麻痺機能検査)	〃	
30	臨床推論	〃	



理学療法評価学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
臨床評価実習	村松 秀明 他	<input checked="" type="checkbox"/> 全教員が理学療法士として病院等における臨床経験、実習指導の経験があり、その経験を基に授業を行う。	1単位 / 45時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
これまでに学んだ知識をもとに、バウケン、形態、関節可動域、筋力などの検査・測定方法や、精神機能・運動機能に関する神経学的検査などの理学療法評価法を、学内外の医療機関における実際の患者を対象に実施し、評価結果に基づいて問題点の抽出と理学療法プログラムの立案についての実際を学ぶ。また、行った理学療法やその他を記述・報告し、発展的に思考していくための基本的な知識を身につける。 さらに評価実習に向けて、知識の整理と正確でスムーズな評価の実施を目標に、課題などを通じてレベルアップを目指す。			2年次
			【開講学期】
			後期
			【授業形態】
			【履修区分】
			実技・実習
			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
対象者に必要な検査測定項目を根拠を持って選択できる。 必要な情報収集ができるよう方法を考えることができる。 得られた情報・評価結果を記録用紙等に記載できる。 得られた情報・評価結果を適切な形でレポートにまとめられる。 評価結果に基づいて問題点の抽出、統合と解釈、理学療法プログラムの立案ができる。		実習では学校指定の実習着・実習靴を使用する。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
グループ単位で担当教員毎に分かれて、学外の医療機関で評価実習を行う。 また、実習終了後に症例報告書を作成し、担当教員と共にグループ毎のフィードバックや症例検討を行う。 学内実習では、評価技術向上のための実技実習を行う。		一般的検査方法、動作観察などを復習しておくこと。また病態解釈のための情報収集方法をまとめておくこと。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
下記の割合と実習中の取り組み姿勢を総合的に評価する。 OSCE40%、レポート30%、報告会20%、期末試験10% ※実習中の姿勢、提出物の期限遅延により、減点を行う。		適宜資料を配布する。	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容		
1	各施設での評価実施 及び レポート作成 校内での実技練習 及び 実技試験		
2	〃		
3	〃		
4	〃		
5	〃		
6	〃		
7	〃		
8	〃		
9	〃		
10	〃		
11	〃		
12	〃		
13	〃		
14	〃		
15	〃		
16	〃		
17	実習報告会		
18	〃		
19	mini OSCE		
20	〃		
21	〃		
22	〃		
23	期末試験・まとめ		
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			

理学療法治療学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
骨関節機能障害学 I	藤堂 庫治 吉澤 利夫	<input checked="" type="checkbox"/> どの教員も理学療法士として病院等における臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】		【履修年次】	【開講学期】
理学療法の対象となる代表的な運動器疾患の基礎を学習し、基本的な理学療法評価から治療方法・技術を理解し実施する。それぞれでは、運動学、解剖学、整形外科学の知識を確認し、習得することも目的とする。		2年次	前期
		【授業形態】	【履修区分】
		講義・実技	必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・整形外科科学の基礎を理解できる</li> <li>・各運動器疾患の症状、特徴を説明できる。</li> <li>・各疾患に対する理学療法評価を選択できる。</li> <li>・各疾患に対する理学療法プログラムが説明できる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に授業参加をすること。</li> <li>・実技時は身だしなみを整え、動きやすい服装で参加すること。</li> </ul>	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイントと教科書、配布資料を基に講義・実技を行う。</li> <li>・実技ではデモンストレーション後、学生同士で実践する。</li> </ul>		シラバスを確認し、講義前に解剖学、運動学、整形外科学の予習をすること。また、配布資料を基に復習と整理が必要である。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
<p>中間試験及び出席及び授業に取り組む姿勢などから総合的に評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>中間試験30% 期末試験②60%</p> <p>授業に取り組む姿勢及び出席状況10%</p>		「病気がみえる 11 運動器・整形外科」 メディックメディア	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	整形外科・運動器の解剖生理 基礎知識：①	吉澤 利夫	
2	整形外科・運動器の解剖生理 基礎知識：②	〃	
3	整形外科・運動器の検査治療：①	〃	
4	整形外科・運動器の検査治療：②	〃	
5	末梢神経損傷	藤堂 庫治	
6	骨系統・代謝・感染性疾患	吉澤 利夫	
7	外傷・スポーツ外傷①	藤堂 庫治	
8	外傷・スポーツ外傷②	〃	
9	外傷・スポーツ外傷③	〃	
10	上肢の疾患①	吉澤 利夫	
11	上肢の疾患②	〃	
12	中間試験	〃	
13	下肢の疾患①	〃	
14	下肢の疾患②	〃	
15	下肢の疾患③	〃	
16	下肢の疾患④	〃	
17	変形性関節症・リウマチ①	〃	
18	変形性関節症・リウマチ②	〃	
19	骨・軟部組織腫瘍・脊髄腫瘍	〃	
20	体幹の疾患①	藤堂 庫治	
21	体幹の疾患②	〃	
22	体幹の疾患③	〃	
23	スペシャルテスト①	〃	
24	スペシャルテスト②	〃	
25	スペシャルテスト③	〃	
26	スペシャルテスト④	〃	
27	スペシャルテスト⑤	〃	
28	スペシャルテスト⑥	〃	
29	スペシャルテスト⑦	〃	
30	期末試験・まとめ	〃	

理学療法治療学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
骨関節機能障害学Ⅱ	藤堂 庫治	<input checked="" type="checkbox"/> 理学療法士として病院において10年以上の臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
理学療法の対象となる代表的な運動器疾患の基礎を学習し、基本的な理学療法評価から治療方法・技術を理解し実施する。それぞれでは、運動学、解剖学、整形外科学の知識を確認し、習得することも目的とする。また、グループに分かれ、各運動器疾患スポーツ分野についての疾患、特徴、障害、評価、リハビリテーションなどについてまとめ、運動療法の実際を発表し確認する。			2年次
			【開講学期】
			後期
			【授業形態】
			講義・実技
			【履修区分】
			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>各運動器疾患の症状、特徴を説明できる。</li> <li>各疾患に対する理学療法評価を選択できる。</li> <li>各疾患に対する理学療法プログラムが説明できる。</li> <li>各疾患に対する運動療法が実施できる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に授業参加をすること。</li> <li>実技時は身だしなみを整え、動きやすい服装で参加すること。</li> </ul>	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>パワーポイントと教科書、配布資料を基に講義・実技を行う。</li> <li>実技ではデモンストレーション後、学生同士で実践する。</li> </ul>		シラバスを確認し、講義前に解剖学、運動学、疾患学の予習をすること。また、配布資料を基に復習と整理が必要である。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
<p>中間試験及び定期試験、発表、出席及び授業に取組む姿勢などから総合的に評価し、60点以上を合格とする。          定期試験70% 中間試験①10% 中間試験②10%          授業に取り組む姿勢及び出席状況10%</p>		<p>「標準理学療法学 運動療法学各論」          医学書院          「整形外科理学療法の理論と技術」          メジカルビュー</p>	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容		
1	骨折・脱臼		
2	骨折・脱臼		
3	脊椎疾患（脊柱管狭窄症、ヘルニアなど）		
4	脊椎疾患（脊柱管狭窄症、ヘルニアなど）		
5	脊椎疾患（腰痛症、側弯症、頸椎症など）		
6	脊椎疾患（腰痛症、側弯症、頸椎症など）		
7	中間テスト①		
8	関節リウマチ		
9	関節リウマチ		
10	肩関節疾患（肩関節周囲炎、腱板損傷など）		
11	肩関節疾患 実技		
12	末梢神経障害		
13	末梢神経障害		
14	中間テスト②		
15	変形性関節症		
16	変形性関節症		
17	靭帯損傷、半月板損傷（膝・足関節）		
18	画像の診方		
19	画像の診方		
20	切断および離断		
21	高齢者の理学療法 ロコモティブシンドローム		
22	アスレティックリハビリテーション①		
23	アスレティックリハビリテーション②		
24	アスレティックリハビリテーション③		
25	アスレティックリハビリテーション④		
26	アスレティックリハビリテーション⑤		
27	アスレティックリハビリテーション⑥		
28	テーピング		
29	テーピング		
30	期末テスト・まとめ		

理学療法治療学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
脳神経機能障害学 I	木島 隆 他	<input checked="" type="checkbox"/> どの教員も理学療法士として病院等における臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】		【履修年次】	【開講学期】
中枢神経疾患による障害の特徴は、運動麻痺、協調性障害、感覚障害、高次脳機能障害などにより質的な運動の制御が困難な状態を示すものである。この授業では、代表的な中枢神経疾患を例に、姿勢や動作の観察及び考察を行いながら、その評価及び治療について講義する。 脳神経内科学で学んだ知識を再確認しながら理学療法の対象となる方の障害像を理解する。		2年次	前期
		【授業形態】	【履修区分】
		講義・実技	必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
中枢神経疾患のメカニズムを学び病態の出現過程と治療過程を説明できる。病態や病期に対応した治療方法を提案でき、実践できる。 脊髄損傷の損傷レベルによる症状の違いを理解し、評価結果を解釈することができる。			
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
パワーポイントと資料を用いて概要を説明したのち、調べ学習を個人または班に分かれて行う。実際に皆の前で調べた考えを発表する。		運動学・解剖学・生理学・神経内科学の教科書も参考にしながら復習を中心に行うこと。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
定期試験、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 定期試験90% 出席及び授業へ取り組む姿勢10%		「病気が見える7脳・神経」ゲイグゲイ 「標準理学療法学 運動療法学各論」 医学書院	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	中枢神経疾患の基礎知識；脳の機能（解剖）	木島 隆	
2	中枢神経疾患の基礎知識；神経症候学（意識障害・頭痛・頭蓋内圧亢進・脳浮腫）	〃	
3	中枢神経疾患の基礎知識；錐体路徴候・錐体外路徴候	〃	
4	中枢神経疾患の基礎知識；感覚障害・運動失調	〃	
5	中枢神経疾患の基礎知識；高次脳機能障害総論	〃	
6	中枢神経疾患の基礎知識；高次脳機能障害各論	〃	
7	〃	〃	
8	脳血管障害の基礎知識	〃	
9	〃	〃	
10	中枢神経変性疾患の基礎（パーキンソン、SCD、脳腫瘍等）	〃	
11	〃	〃	
12	〃	〃	
13	〃	〃	
14	〃	〃	
15	〃	〃	
16	末梢性ニューロパチーの基礎知識	小野 佳子	
17	〃	〃	
18	その他の変性疾患の基礎知識	〃	
19	〃	〃	
20	運動ニューロン疾患・筋原性疾患の基礎知識	〃	
21	〃	〃	
22	脊髄損傷の基礎知識	藤堂 庫治	
23		〃	
24		〃	
25	部分損傷別の症状	〃	
26	自律神経障害、合併症	〃	
27		〃	
28	摂食・嚥下；メカニズム、摂食・嚥下障害の評価と治療	〃	
29		〃	
30	定期試験・まとめ	〃	

理学療法治療学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
脳神経機能障害学Ⅱ	木島 隆 他	<input checked="" type="checkbox"/> どの教員も理学療法士として病院等における臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】		【履修年次】	【開講学期】
中枢神経疾患による障害の特徴は、運動麻痺、協調性障害、感覚障害、高次脳機能障害などにより質的な運動の制御が困難な状態を示すものである。この授業では、代表的な中枢神経疾患を例に、姿勢や動作の観察及び考察を行いながら、その評価及び治療について講義する。神経内科学で学んだ知識を再確認しながら理学療法の対象となる方の障害像を理解する。その上で評価の目的、その実施とその結果に対する解釈、評価項目間の統合を理解する。統合した結果から、問題点を抽出し、目標設定、治療計画の立案ができることを目標とする。		2年次	後期
		【授業形態】	【履修区分】
		講義・実技	必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
中枢神経疾患のメカニズムを学び病態の出現過程と治癒過程を説明できる。病態や病期に対応した治療方法を提案でき、実践できる。最新の脳卒中の治療方法を理解し、説明することができる。脊髄損傷の損傷レベルによる症状の違いを理解し、評価結果を解釈することができる。		実技を行うので運動をできる服装で講義に参加すること	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
パワーポイントと資料を用いて概要を説明したのち、調べ学習を個人または班に分かれて行う。実際に皆の前で調べた考えを発表する。		運動学・解剖学・生理学・神経内科学の教科書も参考にしながら復習を中心に行うこと。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
定期試験、出席及び授業へ取り組む姿勢を総合的に評価する。 定期試験90% 出席及び授業へ取り組む姿勢10%		「リハビリテーションのための画像の読み方」メディカルビュー 「病気が見える7脳・神経」メディックメディア 「標準理学療法学 運動療法学各論」 医学書院	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	脳卒中の回復過程；中枢性障害の回復過程と特徴	木島 隆	
2	脳卒中の評価と治療；運動機能障害と検査、評価（画像含む）と治療の過程	〃	
3	〃	〃	
4	高次脳機能障害の評価	〃	
5	脳卒中の評価と治療；脳血管障害の理学療法（急性期）	〃	
6	〃	〃	
7	脳卒中の評価と治療；脳血管障害の理学療法（回復期）	〃	
8	〃	〃	
9	脳卒中の評価と治療；脳血管障害の理学療法（維持期）	〃	
10	歩行；脳卒中片麻痺患者の歩行分析・評価	高井 浩之	
11	〃	〃	
12	装具療法；脳卒中片麻痺の装具療法	〃	
13	〃	〃	
14	ニューロリハビリテーション	鹿川 章文	
15	〃	〃	
16	頭部外傷；頭部外傷のリハビリテーション（画像評価含む）	鶴飼 正二	
17	〃	〃	
18	パーキンソン病の理学療法	小野 佳子	
19	脊髄小脳変性症の理学療法（実技を含む）	〃	
20	運動ニューロン疾患の病態と理学療法	〃	
21	運動ニューロン疾患の理学療法	〃	
22	脱髄性疾患・多発性筋炎・重症筋無力症の理学療法	〃	
23	神経生理学的治療法の変革、概念と治療	木島 隆	
24	神経生理学的治療法の実際（PNF、ボバース法等）	〃	
25	頸髄損傷の理学療法；C5損傷のADL（車椅子の選択、起居動作、移乗動作を中心に）	藤堂 庫治	
26	頸髄損傷の理学療法；C6損傷のADL（車椅子の選択、起居動作、移乗動作を中心に）	〃	
27	頸髄損傷の理学療法；C7～T1のADL（車椅子の選択、起居動作、移乗動作を中心に）	〃	
28	脊髄損傷の理学療法；装具、自助具、ADL（歩行を中心に）	〃	
29	自助具の実技（車椅子操作、座クッション、褥瘡予防、リフトを用いた移乗、	〃	
30	KAFO・AFOの平行棒内歩行）	〃	
31	定期試験・まとめ	〃	

理学療法治療学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
内部機能障害学 I	小野 佳子 他	<input checked="" type="checkbox"/> どの教員も理学療法士として病院等における臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	1単位 / 30時間
【授業の概要（内容）と目的】		【履修年次】	【開講学期】
内部障害として、心疾患、呼吸器疾患に対するリハビリテーションはすでに歴史がありその有効性も明らかになっている。その他、生活習慣病である高血圧、糖尿病、高脂血症に対しても運動療法の有効性が示されている。また、がん疾患リハビリテーションについての知識も求められている。2学年前期に学んだ「内科学」の知識を基に、理学療法に関連の深い内部疾患について、障害像の把握、理学療法評価とのつながりを理解できるようにする。		2年次	前期
		【授業形態】	【履修区分】
		講義・実技	必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
呼吸器、循環器、代謝疾患やがん等の内部障害の特徴を説明できる。それぞれの疾患に対する評価の選択をし、理学療法との関連性について理解できる。		基本的知識を活用して、疾患と理学療法のつながりを理解できるよう能動的に学ぶこと。共同学習では責任を持って取り組むこと。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
教科書、配布資料、パワーポイント等により講義する。調べ学習、発表等も含め、共同学習も行う。講義時間内に小テストを実施することもある。		疾患等について「内科学」や「神経内科学」の講義内容を復習すること。呼吸系、循環系、代謝系の解剖生理についても復習すること。宿題を出すこともある。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
受講態度10%（出席、態度、宿題、等） 定期試験90%		「標準理学療法学 運動療法学各論」 医学書院 「理学療法学テキスト 内部障害理学療法学」メジカルビュー社	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	循環器の基礎知識	小野 佳子	
2	循環器疾患の病態、評価、心電図	〃	
3	〃	〃	
4	〃	〃	
5	末梢循環障害の病態、評価	〃	
6	呼吸器の基礎知識	〃	
7	呼吸器疾患の病態、評価	〃	
8	〃	〃	
9	〃	〃	
10	糖尿病に関する基礎知識	吉澤 利夫	
11	糖尿病の病態、評価	〃	
12	腎疾患に関する基礎知識	〃	
13	腎疾患の病態、評価	〃	
14	がん 概論	小野 佳子	
15	期末試験、まとめ	〃	

理学療法治療学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
内部機能障害学Ⅱ	小野 佳子 他	<input checked="" type="checkbox"/> どの教員も理学療法士として病院等における臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	2単位 / 60時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
内部障害として、心疾患、呼吸器疾患に対するリハビリテーションはすでに歴史がありその有効性も明らかになっている。その他、生活習慣病である高血圧、糖尿病、高脂血症、腎疾患に対しても運動療法の有効性が示されている。また、がん疾患リハビリテーションについての知識も求められている。 各疾患の特徴や経過、状態の変化に応じた理学療法を展開できることが必要であり、基本的な理学療法治療技術とその応用性について学ぶ。			2年次
			【開講学期】
			【履修区分】
			必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
呼吸器、循環器、代謝疾患その他内部疾患の特徴を説明できる。 それぞれの疾患に対する評価、理学療法の目的、内容や注意事項について理解し、基本的な実技を行える。		基本的知識を活用して、疾患と理学療法のつながりを理解できるよう能動的に学ぶこと。 共同学習では責任を持って取り組むこと。 実技の際は動ける服装で、積極的に練習すること。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
教科書、配布資料、パワーポイント等により講義する。 調べ学習、発表等も含め、共同学習も行う。 講義時間内に小テストを実施することもある。実技も行う。		疾患等について「内科学」「内部機能障害学Ⅰ」の講義内容を復習すること。呼吸器系、循環器系その他の解剖生理についても復習すること。宿題を出すこともある。	
【成績評価の方法と基準】		【教科書・参考書】	
受講態度10%（出席、態度、宿題、等） 中間試験1 15% 中間試験2 15% 中間試験3 15% 期末試験 45%		「標準理学療法学 運動療法学各論」 医学書院 「理学療法学テキスト 内部障害理学療法学」 メジカルビュー社	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
コマ数	授業内容	担当教員	
1	呼吸器系理学療法；病態、評価、理学療法	小野 佳子	
2	〃	〃	
3	〃	〃	
4	〃	〃	
5	呼吸器系理学療法；実技	〃	
6	〃	〃	
7	呼吸器系理学療法；症例検討、グループワーク	〃	
8	〃	〃	
9	呼吸器系理学療法；症例検討、発表	〃	
10	呼吸器系まとめ 中間試験 1	〃	
11	循環器疾患の各論	大見 朋哲	
12	〃	〃	
13	循環器疾患の評価、リハビリテーション	〃	
14	〃	〃	
15	包括的心臓リハビリテーション、実技	〃	
16	〃	〃	
17	末梢循環障害の病態、評価	小野 佳子	
18	〃	〃	
19	循環器疾患の理学療法まとめ	〃	
20	循環器系まとめ 中間試験 2	〃	
21	糖尿病の病態、評価、理学療法	吉澤 利夫	
22	〃	〃	
23	〃	〃	
24	〃	〃	
25	腎疾患の病態、評価、理学療法	〃	
26	〃	〃	
27	〃	〃	
28	がんの理学療法	小野 佳子	
29	〃	〃	
30	糖尿病・腎疾患・がんの理学療法まとめ 中間試験 3	吉澤 利夫	
31	期末試験	小野 佳子	















理学療法治療学

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】																																																																																																
理学療法技術論	小野 佳子 他	<input checked="" type="checkbox"/> 3名の教員が理学療法士として病院等において各授業内容に応じた臨床経験があり、その経験を基に授業を行う。	1単位 / 30時間																																																																																																
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】																																																																																																
基本的理学療法知識をもとに、より専門的な運動療法などの技術を学ぶ。 各種治療手技によるアプローチについて、知識と技術を学び、身に付けることを目的とする。			2年次																																																																																																
また、理学療法士として喀痰吸引の技術も必要であるため、専門家から学ぶ機会とする。各専門分野で活躍する理学療法士等から、普段臨床で実践している経験をもとに直接教授してもらう。			【開講学期】 前期・後期																																																																																																
【授業の到達目標】			【履修形態】																																																																																																
専門的理学療法を学び、基本的技術を修得し、臨床実習や将来の臨床現場での理解に役立てることができる。			【履修区分】 講義・実技																																																																																																
【授業の方法】			【履修上の注意事項】																																																																																																
教科書、配布資料、パワーポイント等により講義する。 実技を多く実施する。			実技の際は運動のできる服装で受講すること。 呼吸理学療法と喀痰吸引の実技は指定の実習着で受講すること。																																																																																																
【成績評価の方法と基準】			【授業時間外学修（予習・復習等）】																																																																																																
受講態度10%（出席、態度） 期末試験（運動器疾患）60% レポート（呼吸理学療法 20%） （喀痰吸引 10%）			運動器、呼吸器等について、基礎知識を復習しておくこと。講義後に指定されたレポートを作成すること。実技で習得した技術を積極的に練習することが望ましい。																																																																																																
【教科書・参考書】			【授業計画（各回のテーマ・内容）】																																																																																																
適宜資料を配布する			<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1141 1039 1236 1084">コマ数</th> <th data-bbox="1236 1039 1497 1084">授業内容</th> <th data-bbox="1497 1039 1592 1084">担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>運動器疾患に対する理学療法；上肢</td> <td>両角 真伊</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>運動器疾患に対する理学療法；下肢</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸理学療法の知識と技術</td> <td>原田 聡昭</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>喀痰吸引の基礎知識と技術</td> <td>山下 科子</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>定期試験、まとめ</td> <td>小野 佳子</td> </tr> </tbody> </table>	コマ数	授業内容	担当教員	1	運動器疾患に対する理学療法；上肢	両角 真伊	2	〃	〃	3	〃	〃	4	〃	〃	5	運動器疾患に対する理学療法；下肢	〃	6	〃	〃	7	〃	〃	8	〃	〃	9	呼吸理学療法の知識と技術	原田 聡昭	10	〃	〃	11	〃	〃	12	〃	〃	13	喀痰吸引の基礎知識と技術	山下 科子	14	〃	〃	15	定期試験、まとめ	小野 佳子																																																
コマ数	授業内容	担当教員																																																																																																	
1	運動器疾患に対する理学療法；上肢	両角 真伊																																																																																																	
2	〃	〃																																																																																																	
3	〃	〃																																																																																																	
4	〃	〃																																																																																																	
5	運動器疾患に対する理学療法；下肢	〃																																																																																																	
6	〃	〃																																																																																																	
7	〃	〃																																																																																																	
8	〃	〃																																																																																																	
9	呼吸理学療法の知識と技術	原田 聡昭																																																																																																	
10	〃	〃																																																																																																	
11	〃	〃																																																																																																	
12	〃	〃																																																																																																	
13	喀痰吸引の基礎知識と技術	山下 科子																																																																																																	
14	〃	〃																																																																																																	
15	定期試験、まとめ	小野 佳子																																																																																																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1141 1084 1236 1128">コマ数</th> <th data-bbox="1236 1084 1497 1128">授業内容</th> <th data-bbox="1497 1084 1592 1128">担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>運動器疾患に対する理学療法；上肢</td> <td>両角 真伊</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>運動器疾患に対する理学療法；下肢</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸理学療法の知識と技術</td> <td>原田 聡昭</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>喀痰吸引の基礎知識と技術</td> <td>山下 科子</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>定期試験、まとめ</td> <td>小野 佳子</td> </tr> </tbody> </table>			コマ数	授業内容	担当教員	1	運動器疾患に対する理学療法；上肢	両角 真伊	2	〃	〃	3	〃	〃	4	〃	〃	5	運動器疾患に対する理学療法；下肢	〃	6	〃	〃	7	〃	〃	8	〃	〃	9	呼吸理学療法の知識と技術	原田 聡昭	10	〃	〃	11	〃	〃	12	〃	〃	13	喀痰吸引の基礎知識と技術	山下 科子	14	〃	〃	15	定期試験、まとめ	小野 佳子	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1141 1084 1236 1128">コマ数</th> <th data-bbox="1236 1084 1497 1128">授業内容</th> <th data-bbox="1497 1084 1592 1128">担当教員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>運動器疾患に対する理学療法；上肢</td> <td>両角 真伊</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>運動器疾患に対する理学療法；下肢</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>呼吸理学療法の知識と技術</td> <td>原田 聡昭</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>喀痰吸引の基礎知識と技術</td> <td>山下 科子</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>〃</td> <td>〃</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>定期試験、まとめ</td> <td>小野 佳子</td> </tr> </tbody> </table>	コマ数	授業内容	担当教員	1	運動器疾患に対する理学療法；上肢	両角 真伊	2	〃	〃	3	〃	〃	4	〃	〃	5	運動器疾患に対する理学療法；下肢	〃	6	〃	〃	7	〃	〃	8	〃	〃	9	呼吸理学療法の知識と技術	原田 聡昭	10	〃	〃	11	〃	〃	12	〃	〃	13	喀痰吸引の基礎知識と技術	山下 科子	14	〃	〃	15	定期試験、まとめ	小野 佳子
コマ数	授業内容	担当教員																																																																																																	
1	運動器疾患に対する理学療法；上肢	両角 真伊																																																																																																	
2	〃	〃																																																																																																	
3	〃	〃																																																																																																	
4	〃	〃																																																																																																	
5	運動器疾患に対する理学療法；下肢	〃																																																																																																	
6	〃	〃																																																																																																	
7	〃	〃																																																																																																	
8	〃	〃																																																																																																	
9	呼吸理学療法の知識と技術	原田 聡昭																																																																																																	
10	〃	〃																																																																																																	
11	〃	〃																																																																																																	
12	〃	〃																																																																																																	
13	喀痰吸引の基礎知識と技術	山下 科子																																																																																																	
14	〃	〃																																																																																																	
15	定期試験、まとめ	小野 佳子																																																																																																	
コマ数	授業内容	担当教員																																																																																																	
1	運動器疾患に対する理学療法；上肢	両角 真伊																																																																																																	
2	〃	〃																																																																																																	
3	〃	〃																																																																																																	
4	〃	〃																																																																																																	
5	運動器疾患に対する理学療法；下肢	〃																																																																																																	
6	〃	〃																																																																																																	
7	〃	〃																																																																																																	
8	〃	〃																																																																																																	
9	呼吸理学療法の知識と技術	原田 聡昭																																																																																																	
10	〃	〃																																																																																																	
11	〃	〃																																																																																																	
12	〃	〃																																																																																																	
13	喀痰吸引の基礎知識と技術	山下 科子																																																																																																	
14	〃	〃																																																																																																	
15	定期試験、まとめ	小野 佳子																																																																																																	







臨床実習

【授業科目名】  見学実習	【担当教員名】  吉澤 利夫 他	【実務経験教員による授業】 <input checked="" type="checkbox"/> 全教員が理学療法士として病院等における臨床経験、実習指導の経験があり、その経験を基に授業を行う。	【単位数/授業時数】  1単位 / 45時間	
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】	【開講学期】
今後の学習の動機付けを図り、リハビリテーション関連職種の一員として理学療法士の役割を学ぶ。見学を通しての医療関連職種としての様々な体験を、自らの理学療法士としての態度要請のための一助とする。また見学した病院・施設の運営方針、役割を理解する。実習期間中は、臨床実習施設において実習指導者のもとで、実践を通じて指導してもらいながら、理学療法士としての知識・技術を身につける。			1年次	後期
			【授業形態】	【履修区分】
			実習	必修
【授業の到達目標】			【履修上の注意事項】	
社会人・医療人としての態度を養う 対象者との人間関係を構築できる 疾病、障害、ADL障害の理解、理学療法士の役割の理解、リスク管理の理解 対象者・障害者の諸問題を把握する 対象者・障害者の諸問題について考え、解決のため行うべきことを考える			社会（施設）での実習となるため、身嗜み、言葉使い、規則などが各施設によって異なることを意識し注意をする。実習では学校指定の実習着を使用する。	
【授業の方法】			【授業時間外学修（予習・復習等）】	
実習前オリエンテーションで、注意事項を指導する。 5日間施設にて実習を行う。 実習終了後、パワーポイントにまとめた報告をする。 報告を聞き、学生間でディスカッションを行う。			血圧測定・脈拍測定・医療面接などの基礎技術や運動学などを復習しておくが良い。	
【成績評価の方法と基準】			【参考書】	
下記の割合と実習中の姿勢を総合的に評価する。 パワーポイント24%、報告会の内容36%、提出物35%、出席5%			臨床実習の手引き	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】  <p style="text-align: center;">授業内容</p>				
	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染予防、個人情報などの指導をおこなう。また、チェックリスト、実習ファイル、出席表の書き方の指導を行う。 実習期間：臨床実習教育者の指導の下、解説、模倣、実施の原則に従い医療従事者として望ましい振る舞いで、症例に接する。（5日間） 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションも可能な限り経験する。			
	実習報告会：パワーポイントを作成し発表を行う。学生間での意見交換を実施する。			

臨床実習

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
評価実習	藤堂 庫治 他	<input checked="" type="checkbox"/> 全教員が理学療法士として病院等における臨床経験、実習指導の経験があり、その経験を基に授業を行う。	3単位 / 135時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
授業で履修したことを、臨床教育者の下に実際に経験し、知識・技術の整理、確立を図る。検査・測定など、様々な情報収集から問題点把握、目標設定までの一連のプロセスについて学ぶ。			2年次
また理学療法士として必要な態度を身につけることや、社会や医療の中で理学療法士の役割について学ぶ。臨床実習教育者の下で基本的な評価方法を学ぶ。実習期間中は、臨床実習施設において実習指導者のもとで、実践を通じて指導してもらいながら、理学療法士としての知識・技術を身につける。			【開講学期】
【授業の到達目標】			【履修区分】
関連部門から必要な情報を収集できる。必要な検査測定項目を選択できる。集められた情報・検査結果を説明できる。集められた情報・評価結果を記録用紙等に記載できる。教育者の立ち振る舞いを理解し、模倣・実施できる。教育者の検査・評価を理解し、模倣・実施ができる。			後期
【授業の方法】			【授業形態】
実習前オリエンテーションで、注意事項を指導する。3週間施設にて実習を受ける。実習後OSCEを行う。また、経験症例について報告書をまとめ、報告会を行い学生間で意見交換を行う。			実習
【成績評価の方法と基準】			【履修上の注意事項】
下記の割合と実習中の姿勢を総合的に評価する。OSCE50%、報告会30%、提出物15%、出欠5%			社会（施設）での実習となるため、身嗜み、言葉使い、規則などが各施設によって異なることを意識し注意をする。実習では学校指定の実習着を使用する。
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			【授業時間外学修（予習・復習等）】
<b>授業内容</b>			
実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染予防、個人情報などの指導をおこなう。また、チェックリスト、実習ファイル、出席表の書き方の指導を行う。 実習期間：3週間の学外実習を実施する。 （課題内容：実習ファイル、チェックリスト、出席表の記入） 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションも可能な限り経験する。			
実習経験のまとめ：パワーポイントにまとめる			
実習報告会：まとめのパワーポイントに基づいて報告会を行い学生間で意見交換をする。			
OSCE：指定された症例の病態を読み取り、症例の演技する。指定された検査や介助を行う。			

臨床実習

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
総合臨床実習 I (総合 I)	塩澤 崇 他	<input checked="" type="checkbox"/> 全教員が理学療法士として病院等における臨床経験、実習指導の経験があり、その経験を基に授業を行う。	8単位 / 360時間
【授業の概要 (内容) と目的】			【履修年次】
2学年までの授業及び評価実習で履修したことを、臨床実習指導者のもとに応用し、知識・技術の整理、確立を図ることを目的としている。内容としては検査・測定を中心とした様々な情報収集から問題点把握、目標設定、治療計画立案及び治療実施が含まれる。それらの結果については報告書にまとめるとともに報告を行う。また理学療法士として必要な態度を身につけることや、社会や医療の中での理学療法士の役割について学ぶことも目標としている。また理学療法部門の管理・運営に必要な基本事項について自分の意見を持ち、さらに医療専門職として責任ある態度・行動がとれることも大切な目標である。実習期間中は、臨床実習施設において実習指導者のもとで、実践を通じて指導してもらいながら、理学療法士としての知識・技術を身につける。			3年次
			【開講学期】
			【授業形態】
			【履修区分】
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
関連部門から必要な情報を収集できる。必要な検査測定項目を選択できる。 集められた情報・評価結果を記録用紙等に記載できる。 教育者の立ち振る舞いを理解し、模倣・実施できる。 教育者の検査・評価・治療を理解し、模倣・実施ができる。 評価・治療の変更を理解し模倣・実施ができる。報告ができる。		社会（施設）での実習となるため、身だしなみ、言葉遣い、規則などが各施設によって異なることを意識し注意をする。実習では学校指定の実習着を使用する。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
実習前オリエンテーションで、注意事項を指導する。 8週間施設にて実習を受ける。 実習前後OSCEを行う。また、経験してきた学びをパワーポイントにまとめ、報告会で学生間の意見交換を行う。		一般的検査方法、動作観察などを復習しておくこと。また病態解釈のための情報収集方法をまとめておくこと。運動療法学を復習しておく。	
【成績評価の方法と基準】		【参考書】	
下記の割合と実習中の姿勢を総合的に評価する。 OSCE50%、報告会30%、提出物15%、出欠5%		臨床実習の手引き	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
<b>授業内容</b>			
	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染予防、個人情報などの指導をおこなう。また、チェックリスト、実習ファイル、出席表の書き方の指導を行う。		
	実習期間：8週間の学外実習を実施する。 （課題内容：実習ファイル、チェックリスト、出席表の記入） 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションも可能な限り経験する。		
	実習経験のまとめ：パワーポイントにまとめる		
	実習報告会：まとめのパワーポイントに基づいて報告会を行い学生間で意見交換をする。		
	OSCE：指定された症例の病態を読み取り、症例の演技する。 リスク管理しながら指定された検査や介助を行う。		
	臨床実習前後にOSCEを行う。		

臨床実習

【授業科目名】	【担当教員名】	【実務経験教員による授業】	【単位数/授業時数】
総合臨床実習Ⅱ（総合Ⅱ）	塩澤 崇 他	<input checked="" type="checkbox"/> 全教員が理学療法士として病院等における臨床経験、実習指導の経験があり、その経験を基に授業を行う。	8単位 / 360時間
【授業の概要（内容）と目的】			【履修年次】
2学年までの授業及び評価実習で履修したことを、臨床実習指導者のもとに応用し、知識・技術の整理、確立を図ることを目的としている。内容としては検査・測定を中心とした様々な情報収集から問題点把握、目標設定、治療計画立案及び治療実施が含まれる。それらの結果については報告書にまとめるとともに報告を行う。また理学療法士として必要な態度を身につけることや、社会や医療の中での理学療法士の役割について学ぶことも目標としている。また理学療法部門の管理・運営に必要な基本事項について自分の意見を持ち、さらに医療専門職として責任ある態度・行動がとれることも大切な目標である。実習期間中は、臨床実習施設において実習指導者のもとで、実践を通じて指導してもらいながら、理学療法士としての知識・技術を身につける。			【開講学期】 3年次 前期・後期
			【履修区分】 実習 必修
【授業の到達目標】		【履修上の注意事項】	
関連部門から必要な情報を収集できる。必要な検査測定項目を選択できる。 集められた情報・評価結果を記録用紙等に記載できる。 教育者の立ち振る舞いを理解し、模倣・実施できる。 教育者の検査・評価・治療を理解し、模倣・実施ができる。 評価・治療の変更を理解し模倣・実施ができる。報告ができる。		社会（施設）での実習となるため、身だしなみ、言葉遣い、規則などが各施設によって異なることを意識し注意をする。実習では学校指定の実習着を使用する。	
【授業の方法】		【授業時間外学修（予習・復習等）】	
実習前オリエンテーションで、注意事項を指導する。 8週間施設にて実習を受ける。 実習前後OSCEを行う。また、経験してきた学びをパワーポイントにまとめ、報告会で学生間の意見交換を行う。		一般的検査方法、動作観察などを復習しておくこと。また病態解釈のための情報収集方法をまとめておくこと。運動療法学を復習しておく。	
【成績評価の方法と基準】		【参考書】	
下記の割合と実習中の姿勢を総合的に評価する。 OSCE50%、報告会30%、提出物15%、出欠5%		臨床実習の手引き	
【授業計画（各回のテーマ・内容）】			
<b>授業内容</b>			
	実習前オリエンテーション（学内）：実習の目的、手順、心得、マナー、感染予防、個人情報などの指導をおこなう。また、チェックリスト、実習ファイル、出席表の書き方の指導を行う。 実習期間：8週間の学外実習を実施する。 （課題内容：実習ファイル、チェックリスト、出席表の記入） 訪問リハビリテーション・通所リハビリテーションも可能な限り経験する。		
	実習経験のまとめ：パワーポイントにまとめる		
	実習報告会：まとめのパワーポイントに基づいて報告会を行い学生間で意見交換をする。		
	OSCE：指定された症例の病態を読み取り、症例の演技する。		
	リスク管理しながら指定された検査や介助を行う。		
	臨床前後にOSCEを行う。		